

## 調査データのトレーサビリティの確認結果

### 元となるデータ:コア観察カードの確認結果(2)

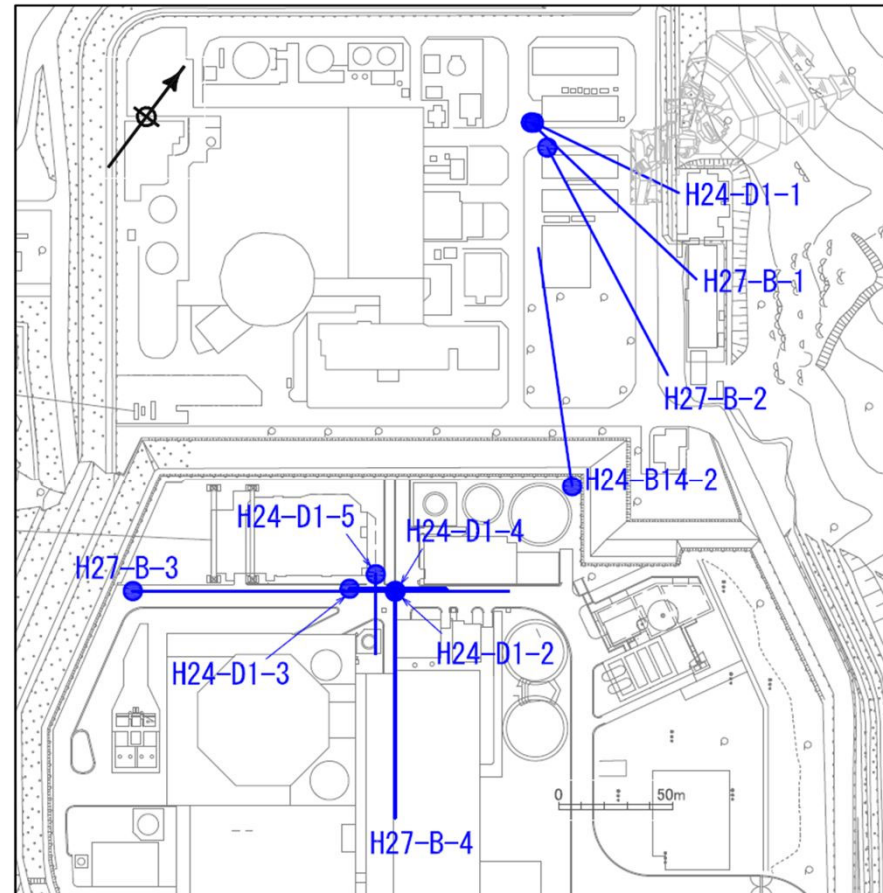
令和4年11月25日

日本原子力発電株式会社

余白

# 目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	3-7-7
H27-B-1	3-7-31
H27-B-2	3-7-57
H24-B14-2	3-7-95
H24-D1-3	3-7-125
H24-D1-2	3-7-145
H24-D1-4	3-7-157
H27-B-3	3-7-183
H27-B-4	3-7-223
H24-D1-5	3-7-255



ボーリング調査位置図

- 本資料は、資料3-6で確認したコア観察カードの確認結果を踏まえ、要求事項に基づきボーリング柱状図に記載する記事を検討した結果を示す資料である。
- 本資料は、審査資料のボーリング柱状図のトレーサビリティを確認するうえで元となるデータである。
- 資料の各項目について次頁で説明する。

# 各項目についての説明

①※  
コア観察カードの内容を転記している箇所

②※  
コア観察カードの記事内容について、コア及びコア写真で確認した結果(追記・表現の統一等の箇所を赤字で表記)

③  
コア観察カードの確認結果から、柱状図へ記載する内容を選定した結果

④  
柱状図へ記載する記事を選定した理由

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1			コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
223	74.36	74.50	74.36	74.50	破砕帯(主せん断面74.40m) 連続する細粒部	74.36	74.50	破砕部(最新活動面74.40m) 連続する細粒部							硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
224	74.36	74.40	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「礫質砂状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「礫質砂状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。含まれる細粒部は網目状に分布。				74.36	74.50	●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄橙色を呈する。幅75mm以上。	
225	74.40	74.41	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ7m/m	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ7m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。							
226	74.41	74.50	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にバラけたコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟質な「礫質砂状」呈する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭							
227	74.50	75.57	-	-	-	-	-	-	74.50	75.57	74.50~75.57m:D				
228	74.50	75.00	74.50	75.00	礫状コアで採取され、割れ目状況など不明	74.50	75.00	コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。	74.50	75.00	74.50~75.00m:コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。				
229	75.00	75.57	-	-	岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-	-	-	75.00	75.57	75.00~75.57m: 原岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。				

※:①, ②については資料3-6「コア観察カードの確認結果(1)」と同じ表を使用している。

なお、資料3-9に、③及び④の列を転記している。

余白

H24-D1-1

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)				
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度					
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容				
1	0	4.33	埋戻し土 0~3.00mまで中砂、3.00~4.00mまで粗砂、4.00~ 4.23mまで砂礫からなる。各土層境界は漸移的で明 瞭な境界は認められない。	0.00	4.33	盛土 0.00~3.00mまで中砂、3.00~4.00mまで粗砂、4.00 ~4.33mまで砂礫からなる。各土層境界は漸移的で 明瞭な境界は認められない。	0.00	4.33	0.00~4.33m: 盛土 中粒砂~砂礫からなり、下部ほど礫を多く含む。隙は径2~30mmの花崗 斑岩や石英の硬質礫主体である。ルーズな部分が多い。	・盛土区間をまとめて書きた。	
2	0	3.00	均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒が点在する。	0.00	3.00	均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒が点在する。 無構造、ルーズ。	-	-	-	・盛土区間をまとめて書きたため、盛土区間の細区分の記事は削除した。	
3	1.70	2.00	φ5~10mm(最大φ30mm)のGp岩片を多く含む	-	-	-	-	-	-	・盛土区間をまとめて書きたため、盛土区間の細区分の記事は削除した。	
4	2.86	2.86	コア中にビニールのひもが埋まる。埋戻し時に混入 したと推定される。	2.86	2.86	コア中にビニールのひもが埋まる。埋戻し時に混入 したと推定される。	2.86	2.86	2.86m: ビニール紐を含む。	-	
5	3.00	4.00	φ2~5mm(最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。 やや締っている。	3.00	4.00	φ2~5mm(最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。 やや締っている。	-	-	-	・盛土区間をまとめて書きたため、盛土区間の細区分の記事は削除した。	
6	4.00	4.23	φ5~30mmGp硬質礫を含む。下位の第四系砂礫層 との境界は不明瞭(両者が砂礫のため)	4.00	4.23	φ5~30mmGp硬質礫を含む。下位の第四系砂礫層 との境界は不明瞭(両者が砂礫のため)	-	-	-	・盛土区間をまとめて書きたため、盛土区間の細区分の記事は削除した。	
7	4.33	12.10	3層で、砂礫層主体である。中砂~粗砂。局部的に シルト~粘土層をはさむ。	4.33	12.15	3層で、砂礫層主体である。中砂~粗砂。局部的に シルト~粘土層を挟む。	4.33	12.15	4.33~12.15m: 砂礫主体	・当該区間の主体となる地質のみ記載し、局所的な地質は下記に個別に示した。	
8	4.33	5.05	砂礫 φ2~5mm/石英粒、φ5~80mmGpの壱円~五角礫 を含み、硬質礫が殆んどを占める。基質はや ルーズな中砂~粗砂。炭含有率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片 を含む。	4.33	4.97	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ5~80mmGpの壱円~五角礫 を含み、硬質礫が殆んどを占める。基質はや ルーズな中砂~粗砂。炭含有率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片 を含む。	4.33	4.97	4.33~4.97m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径5~80mmの花崗斑岩の壱円~五角礫を含み、硬 質礫が多い。基質はやルーズな中~粗粒砂。炭30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片を含む。	・スライムであることを示す内容のみ記載した。	
9	5.05	5.45	粗砂 φ1~3mm石英粒を多く含む。やや締っている。 5.20mにφ10mmの半クサリGp礫を含む。	4.97	5.45	スライム(上からの崩壊物と思われる) 4.97~5.00m間は黒色(灰黄色粘土)、5.00~5.45m 間は粗粒砂からなる。φ1~3mm石英粒を多く含 む。径1cm以下の黒色頁岩の礫を含む。ルーズ。 5.20mにφ10mmの半クサリGp礫を含む。	4.97	5.45	4.97~5.45m: スライム 灰黄色粘土からなる膠粒砂からなる。径10mm以下の黒色頁岩の 礫を含む。ルーズである。		
10	5.05	5.45	(地質名欄)砂	4.97	5.45	(地質名欄)コア欠如	4.97	5.45	(地質名欄)コア欠如		
11	5.45	6.33	礫 φ30~280mm(コア長)の硬質な亜角礫Gpからな る。半クサリ~クサリ礫は分布しない。	-	-	-	5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの硬質な花崗斑岩の亜角礫からなる。半クサリ~クサリ礫 は分布しない。	5.45	6.33		
12	6.33	6.59	砂礫 φ2~80mmGpの壱円~五角礫の硬質礫と、中砂~ 粗砂のやや締った基質からなる。炭含有率は30% 前後。徐々に未分解で炭化していない菓片を含む。	6.33	6.59	砂礫 φ2~80mmGpの壱円~五角礫の硬質礫と、中砂~ 粗砂のやや締った基質からなる。炭含有率は30% 前後。徐々に未分解で炭化していない菓片を含む。	6.33	6.59	6.33~6.59m: 砂礫 径2~30mmの花崗斑岩の壱円~五角礫の硬質礫と中~粗粒砂のやや 締った基質からなる。炭含有率は30%前後。徐々に未分解で炭化してい ない菓片を含む。		
13	6.59	6.72	シルト混じり粗砂 有機質で、φ1~2mmの石英粒、長石粒、岩片を含 んでいる。また、炭化物片や未分解の菓片も含む。 褐色を呈する。やや締っている。	6.59	6.72	シルト混じり粗砂 有機質で、φ1~2mmの石英粒、長石粒、岩片を含 んでいる。また、炭化物片や未分解の菓片も含む。 褐色を呈する。やや締っている。	6.59	6.72	6.59~6.72m: シルト混じり粗砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分 解の菓片も含む。褐色を呈する。やや締っている。		
14	6.59	6.72	(色調欄)10YR6/4にふい黄緑	6.59	6.72	(色調欄)褐灰	6.59	6.72	(色調欄)褐灰		
15	6.72	6.78	粘土 傾斜20° 幅40~50mmの粘土でφ10mm硬質Gp岩 片を含む。やや締っている。	6.72	6.78	粘土 傾斜20° 幅40~50mmの灰色粘土でφ10mm硬質 Gp岩片を含む。やや締っている。	6.72	6.78	6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質花崗斑岩の岩片 を含む。やや締っている。		
16	6.72	6.78	(地質名欄)砂	6.72	6.78	(地質名欄)粘土	6.72	6.78	(地質名欄)粘土		
17	6.78	8.84	中砂 6.78~7.00mはφ5~10mm(最大30mm)のGp壱円礫 を多く含む。	6.78	7.00	中砂 φ5~10mm(最大30mm)のGp壱円礫を多く含む。礫 混じり粗粒砂。褐色(10YR6/6)を呈する。ルーズ。	6.78	7.00	6.78~7.00m: 線混じり粗粒砂 径5~30mmの花崗斑岩の壱円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。		
18	6.78	7.00	(地質名欄)砂	6.78	7.00	(地質名欄)線混じり粗粒砂	6.78	7.00	(地質名欄)線混じり粗粒砂		



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事			
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容		
19	-	-	7.00	9.48	スライム(コア採取できず、落下したコアを再採取したも)	7.00	9.48	7.00~9.48m:スライム中~粗粒砂からなる。均質でルース。稀に径60mm以上の花崗斑岩の塊を含む。	*スライム区間をまとめて書きした。	
20	7.00	9.48	(地質名欄)砂	7.00	9.48	(地質名欄)コア欠如	7.00	9.48	(地質名欄)コア欠如	-
21	7.00	8.84	ゆるく均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒やGp岩片が点在する。φ5mm以上の礫は殆んど含まない。堆積構造は認められない。	-	-	-	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
22	8.00	8.00	φ60mmGp重円礫に分布	8.00	8.00	φ60mmGp重円礫が分布	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
23	8.30	8.30	5°幅10~20mmでφ2~4mmの石英粒、長石粒、Gp岩片が多く含まれる。	-	-	-	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
24	8.32	8.50	間は細砂が主体。	-	-	-	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
25	8.84	8.84	粗砂層に漸移する(明瞭な境界なし)	-	-	-	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
26	8.84	9.48	粗砂 φ1~2mm石英粒、長石粒を多く含む(最大10mmGp重円礫)。全体にゆるい。堆積構造は認められない。	-	-	-	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
27	9.40	9.40	長さ40mm、幅20mm、厚さ3~5mmのGp板状礫を含む。	9.40	9.40	長さ40mm、幅20mm、厚さ3~5mmのGp板状礫を含む。	-	-	-	*上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
28	9.48	10.25	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ5~70mmGp重円~垂角礫と、ゆるい中砂~粗砂の混在からなる。礫含有率は30%前後で、大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	-	-	-	9.48	10.25	9.48~10.25m:砂礫 径2~5mmの石英粒、径5~70mmの花崗斑岩の重円~垂角礫とルースな中~粗粒砂の基質からなる。礫率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	-
29	10.25	11.00	中砂 上端側の10.25~10.40mは若干の粘性土分を含み、このうち、10.30~10.38mは炭化物片を含み有機質である。10.38m以下はφ2~3mmの石英粒、Gp岩片(最大は15~20mm半クサリ~クサリ礫)を少量含み、よく締まっている。10.63~10.95mに炭化物片を含む。堆積構造は認められない。	10.25	11.00	中砂 上端側の10.25~10.40mは若干の粘性土分を含み、このうち、10.30~10.38mは炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色(10GY4/1)。10.38m以下はφ2~3mmの石英粒、Gp岩片(最大は15~20mm半クサリ~クサリ礫)を少量含み、よく締まっている。10.63~10.95mに炭化物片を含む。堆積構造は傾斜45°程度。	10.25	11.00	10.25~11.00m:中砂 10.25~10.40mは若干の粘土分を含む。10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。10.38m以下は径2~3mmの石英粒、径15~20mm以下の花崗斑岩の半クサリ~クサリ礫を少量含み、よく締まっている。10.63~10.95mに炭化物片を含む。	-
30	10.25	11.00	(地質名欄)砂	10.25	11.00	(地質名欄)中砂	10.25	11.00	(地質名欄)中砂	-
31	11.00	12.15	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ10~160mmGp重円~垂角礫を多く含み、よく締った中砂~粗砂の基質からなる。礫含有率は40~50%。11.70~12.15mではφ10~20mmの礫は半クサリ状が主体となる。11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。	11.00	12.15	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ10~160mmGp重円~垂角礫を多く含み、よく締った中砂~粗砂の基質からなる。礫含有率は40~50%。11.90~12.15mではφ10~20mmの礫は半クサリ状が主体となる。11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。	11.00	12.15	11.00~12.15m:砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の重円~垂角礫を多く含み、よく締った中~粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。11.00~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。	-
32	12.20	12.20	著岩	12.15	12.15	著岩	-	-	-	*下に花崗斑岩の区間を示しているため著岩の記載はしない
33	12.20	12.20	φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)である	12.15	100.00	花崗斑岩 φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)である	12.15	100.00	12.15~100.00m:花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。	-
34	12.20	18.10	風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分C)と硬さE(同D級)をくり返す(ただし硬さ「E」が主体)。実質粘土化部や粘土層の分布は少ない。割れ目深い部は風化で砂状化する。割れ目深い部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。割れ目は10~30° 割れ目が主体で、一部でこれら割れ目に60~80° 割れ目が交差する。	12.15	18.10	風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分C)と硬さE(同D級)をくり返す(ただし硬さ「E」が主体)。実質粘土化部や粘土層の分布は少ない。割れ目深い部は風化で砂状化することが多い。割れ目深い部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。割れ目は10~30° 割れ目が主体で、一部でこれら割れ目に60~80° 割れ目が交差する。	12.15	18.10	12.15~18.10m:風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分C)と硬さE(同D級)をくり返す。ただし、硬さ「E」が主体である。実質粘土化部や粘土層の分布は少ない。割れ目深い部は風化で砂状化することが多い。割れ目深い部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。割れ目は10~30° 割れ目が主体で、一部でこれらに、傾斜60~90°の割れ目が交差する。	-
35	14.78	15.10	珪質のため硬さ「B」の硬質部として残留している	-	-	-	14.78	15.10	14.78~15.10m:珪質のため硬質部として残留する。	*記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度		
36	14.78	15.10							
37	15.54	15.54	85° 割れ目に厚さ0.5mm白色軟弱粘土を挟む。	15.54	15.54	85° 割れ目に厚さ0.5mm白色軟弱粘土を挟む。	15.54	15.54	15.54m: 傾斜85° で幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。
38	15.60	15.74	間を60~90° で湾曲して連続する割れ目に厚さ0.5mm白色軟弱粘土を挟む。	15.60	15.74	間を60~90° で湾曲して連続する割れ目に厚さ0.5mm白色軟弱粘土を挟む。	15.60	15.74	15.60~15.74m: 傾斜60~90° で湾曲して連続する割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。
39	15.59	15.93	(岩級区分) CL	15.59	15.93	(岩級区分) D	15.59	15.93	(岩級区分) DIに含める
40	15.82	15.82	φ8mmと大型な長石斑晶1つ分布	-	-	-	15.82	15.82	15.82m: 径8mmの大型な長石斑晶1つ分布する。
41	16.07	16.07	50° せん断性割れ目。石英斑晶を切断し、かつ、交差する割れ目も切っている(変位2mm、左ズレ)	16.07	16.07	50° せん断性割れ目。石英斑晶が傾断している。を切断し、かつ、交差する割れ目も切っている(変位2mm、左ズレ) 割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	16.07	16.07	16.07m: 傾斜50° の割れ目は石英斑晶を横断する。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
42	16.71	16.71	24°、幅0.5~1mm石英脈	16.71	16.71	24°、幅0.5~1mmの石英脈を挟む	16.71	16.71	16.71m: 傾斜24° で幅0.5~1mmの石英脈を挟む。
43	-	-	-	17.69	17.80	強く風化・変質し軟弱である。やや黄色味を帯びる。40° 程度の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。	17.69	17.80	17.69~17.80m: 強く風化・変質し軟弱で、やや黄色味を帯びる。傾斜40° 程度の割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。
44	18.10	19.00	風化により、大半の割れ目が消滅しかかっている。	-	-	-	18.10	19.00	18.10~19.00m: 風化により、大半の割れ目が消滅しかかっている。
45	18.16	18.16	40° の消滅しかかっている割れ目その一部で幅5~10mmが淡緑色化(粘土化は伴わない)	18.16	18.16	40° の消滅しかかっている割れ目その一部で幅5~10mmが淡緑色化(粘土化は伴わない)	18.16	18.16	18.16m: 傾斜40° の消滅しかかっている割れ目沿いの一部で幅5~10mmが淡緑色化するが、粘土化は伴わない。
46	18.30	18.30	20°、幅2~15mmでマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	18.37	18.37	20°、幅2~15mmでマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	18.37	18.37	18.37m: 傾斜20° で幅2~15mmがマンガン鉱染を受け黒褐色化する。
47	19.00	19.88	10~25° 割れ目が残留するが、風化により、一部で消えかかっている。	-	-	-	19.00	19.88	19.00~19.88m: 傾斜10~25° の割れ目が残留するが、風化により、一部で消えかかっている。
48	19.60	19.83	硬さDの岩片が主体で10~20° 割れ目が残留している。	-	-	-	19.60	19.83	19.60~19.83m: 傾斜10~20° の割れ目が残留する。
49	19.60	19.83	(コアの硬さ) Eランク	19.60	19.83	(コアの硬さ) Dランク	19.60	19.83	(コアの硬さ) Dランク
50	19.88	20.25	割れ目や岩組織は大半が消滅している。	19.88	20.25	割れ目や原岩組織は大半が消滅している。	19.88	20.25	19.88~20.25m: 割れ目や原岩組織は大半が消滅する。
51	20.09	20.09	付近は幅5~20mmで淡緑色化	20.09	20.09	付近は幅5~20mmで淡緑色化、傾斜5°	20.09	20.09	20.09m付近: 傾斜5° で幅5~20mmが淡緑色化する。
52	20.16	20.19	上端5°、下端15°で、上端は一部で不明瞭。下端はほぼ直線的でシャープに連続する。幅30~35mmのφ5mmの粘土化岩片を多く含む。硬質粘土で、灰白(10VR/2)~に黄褐色(10VR/2)を呈する。上記区間以外はφ5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。	20.16	20.19	上端5°、下端15°で、上端は一部で不明瞭。下端はほぼ直線的でシャープに連続する。幅30~35mmのφ5mmの粘土化岩片を多く含む。硬質粘土で、灰白(10VR/2)~に黄褐色(10VR/2)を呈する。上記区間以外はφ5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。	20.16	20.19	20.16~20.19m: D層5°で一部不明瞭。下端15°でほぼ直線的でシャープに連続。幅30~35mmで径5mmの粘土化岩片を多く含む。灰白~に黄褐色を呈する。この上位及び下位では、径3~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。
53	-	-	-	20.19	20.25	傾斜40~5°の割れ目が密集し、砂状化するほど風化している。灰褐色を呈する。幅6cm。	20.19	20.25	20.19~20.25m: 傾斜40~5°の割れ目が幅6cmで密集し、砂状化するほど風化する。灰褐色を呈する。
54	20.25	21.04	全区間、割れ目状態、コア形状Vで岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟化した硬さE、20.54~20.77mは硬さDと硬さが異なる。割れ目は20°前後が主体で幅1~2mmの軟弱な灰白、褐色の粘土脈を挟むことが多い。	20.25	21.04	全区間、割れ目状態、コア形状Vで原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟化した硬さE、20.54~20.77mは硬さDと硬さが異なる。割れ目は20°前後が主体で幅1~2mmの軟弱な灰白、褐色の粘土脈を挟むことが多い。	20.25	21.04	20.25~21.04m: 原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟化した硬さE、20.54~20.77mは硬さDと硬さが異なる。傾斜20°前後の割れ目が主体で、幅1~2mmの軟弱な灰白色、褐色の粘土脈を挟むことが多い。
55	20.65	21.94	10~30°の風化で消滅しかかっていた割れ目その一部で幅5~15mmが褐色(10VR 7/6)を呈し、一部で砂状化する。	20.65	21.94	10~30°の風化で消滅しかかっていた割れ目沿いに幅5~15mmが褐色(10VR 7/6)を呈し、一部で砂状化する。	20.65	21.94	20.65~21.94m: 傾斜10~30°の風化で消滅しかかっていた割れ目沿いに幅5~15mmが褐色を呈し、一部で砂状化する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
56	21.04	24.53	ほぼ硬さ「D」からなるが、局所的には割れ目ぞいに軟化著しい部分も含まれる。割れ目は岩組織は明確に残留する。割れ目は10~35°が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5mm~1mmとごく薄い粘土をはさむが、幅広い粘土層は分布しない。	21.04	24.53	ほぼ硬さ「D」からなるが、局所的には割れ目沿いに軟化著しい部分も含まれる。割れ目は岩組織は明確に残留する。割れ目は10~35°が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5mm~1mmとごく薄い灰白~橙色粘土を挟むが、幅広い粘土層は分布しない。	21.04	24.53	21.04~24.53m 局所的に割れ目沿いに軟化著しい部分を含む。割れ目と岩組織は明確に残留する。割れ目は10~35°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5~1mmの灰白~橙色粘土を挟むが、幅広い粘土層は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
57	22.77	22.77	76° 割れ目、幅2~3mmの軟弱な橙色(10YR 7/6)粘土層をはさむ。	22.77	22.77	76° 割れ目、幅2~3mmの軟弱な橙色(10YR 7/6)粘土層を挟む。面は凹凸。	22.77	22.77	22.77m 傾斜76°で幅2~3mmの軟弱な橙色の粘土層を挟む。面は凹凸がある。	-
58	23.13	23.13	58°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土をはさむ。	23.13	23.13	58°のせん断性割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。切っている。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	23.13	23.13	23.13m 傾斜58°の割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
59	23.40	23.40	75~80°で若干湾曲するせん断性割れ目。23.41mで交差する25°割れ目を切る(変位量7mm、右ズレ)。	23.40	23.40	75~80°で若干湾曲するせん断性割れ目。23.41mで交差する25°割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度の右側にズレているように見えるが、上端側では横断している。変位量2mm、右ズレ。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟むが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	23.40	23.40	23.40m 傾斜75~80°で若干湾曲する割れ目と23.41mで交差する傾斜25°割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度の右方にズレているように見えるが、上端側では横断している。変位量2mm、右ズレ。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟むが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	-
60	23.58	23.58	50°、幅1mm石英脈。密着している。	23.58	23.58	50°、幅1mmの石英脈を挟む。密着している。	23.58	23.58	23.58m 傾斜50°で幅1mmの石英脈を挟む。密着している。	-
61	23.91	23.91	30°割れ目の下壁側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、φ0.5mm以下の微細な鉱物が晶出している。	23.91	23.91	30°割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、φ0.5mm以下の微細な鉱物が晶出している。	23.91	23.91	23.91m 傾斜30°の割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、φ0.5mm以下の微細な鉱物が晶出する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
62	24.63	30.63	コア形状Vで、硬さ「D」が主体であるが、風化で軟化著しい硬さ「E」も含む。硬さ「E」でも原岩組織や割れ目は残留しているものが大半で、硬さ「D」も含め、全体の割れ目は10~50°が主体で、一部で10~50°割れ目に60~70°割れ目が交差する。多くは割れ目ぞいに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。所々に交差する割れ目を切りながら、直線的でシャープに連続するせん断性割れ目が分布する。	24.63	30.63	コア形状Vで、硬さ「D」が主体であるが、風化で軟化著しい硬さ「E」も含む。硬さ「E」でも原岩組織や割れ目は残留しているものが大半で、硬さ「D」も含め、全体の割れ目は10~50°が主体で、一部で10~50°割れ目に60~70°割れ目が交差する。多くは割れ目沿いに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。所々に交差する割れ目を切りながら、直線的でシャープに連続するせん断性割れ目が分布する。	24.63	30.63	24.63~30.63m 全体にやや軟弱で、風化で著しく軟化する部分も含む。原岩組織や割れ目は残留するものが大半で、傾斜10~50°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~70°の割れ目が交差する。多くは割れ目沿いに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
63	25.05	25.05	35° 割れ目ぞいに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も混む。	25.05	25.05	35° 割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も混む。	25.05	25.05	25.05m 傾斜35°の割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も混む。	-
64	25.12	25.12	40°のせん断性割れ目で、交差する微細な割れ目を切っている。周囲10mmにφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出。また、割れ目に幅0.5mmの褐色軟弱粘土をはさむ。	25.12	25.12	40°のせん断性割れ目で、交差する微細な割れ目は止まっている。切っている。周囲10mmにφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出。また、割れ目に幅0.5mmの褐色軟弱粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	25.12	25.12	25.12m 傾斜40°の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmにφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟弱な褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
65	-	-	-	25.33	25.33	傾斜36°、幅5~15mm砂状化、白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化している。	25.33	25.33	25.33m 傾斜36°で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化する。	-
66	26.50	27.04	26.50m~22°~27.04m~35°で囲まれた部分は、全体に軟化著しい。一部で幅0.5mm白色軟弱粘土層を伴う。岩組織は残留する。	26.50	27.04	26.50m~22°~27.04m~35°で囲まれた部分は、全体に軟化著しい。一部で幅0.5mmの白色軟弱粘土層を伴う。原岩組織は残留する。	26.50	27.04	26.50m~22°と27.04m~35°の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟化著しい。一部で幅0.5mmの軟弱な白色粘土層を伴う。原岩組織は残留する。	-
67	27.21	27.21	34°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目ぞいに3mmが砂状化する。	27.21	27.21	34°のせん断性割れ目で、交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。切っている。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.21	27.21	27.21m 傾斜34°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
68	-	-	-	27.43	27.43	傾斜20°程度、幅2~5mmの石英脈を挟む。	27.43	27.43	27.43m 傾斜20°程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。	-
69	27.54	27.64	40°前後の割れ目ぞいに風化が進み、著しく軟化し、一部砂状を呈する。	27.54	27.64	40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟化し、一部砂状を呈する。	27.54	27.64	27.54~27.64m 傾斜40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟化し、一部砂状を呈する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
70	27.81	27.81	32°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目は幅1~2mm砂状化。	27.81	27.81	32°のせん断性割れ目で、交差する高角度割れ目が横断している。切っ迫する割れ目は幅1~2mm砂状化。割れ目には挟在物は伴わず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	27.81	27.81	27.81m:傾斜32°の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目には挟在物は伴わず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
71	27.81	27.90	幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布。	27.81	27.98	幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布。	27.81	27.98	27.81~27.98m:幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。
72	28.14	28.23	28.14~34°~28.23m~20°で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片状化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	28.14	28.23	28.14m~34°~28.23m~20°で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片状化する。一部でマンガン鉱染を伴う。 28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	28.14	28.23	28.14m~34°と28.23m~20°の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片化する。一部でマンガン鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。
73	28.60	28.60	43°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。	28.60	28.60	43°のせん断性割れ目で、交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。切っ迫している。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	28.60	28.60	28.68m:傾斜43°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
74	28.76	28.76	44°のせん断性割れ目で、交差する石英脈や割れ目を切っている。	28.76	28.76	44°のせん断性割れ目で、交差する石英脈や割れ目は止まっている場合がある。切っ迫している。割れ目には挟在物が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	28.76	28.76	28.76m:傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目は止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
75	29.38	29.93	10~30°割れ目ぞいに風化により軟質が著しくなり、割れ目周辺では砂状化。	29.38	29.93	10~30°割れ目ぞいに風化により軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化。	29.38	29.93	29.38~29.93m:傾斜10~30°の割れ目ぞいに風化で軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。
76	29.93	30.53	コア硬くなる(硬さF/D)。	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
77	30.12	30.12	35°、割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片状化。	30.12	30.12	35°、割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片状化。	30.12	30.12	30.12m:傾斜35°の割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片化する。
78	30.17	30.34	70~90°で湾曲した割れ目の半分側は硬質(硬さC/J)。	30.17	30.34	70~90°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側はやや硬質(硬さC/J)。	30.17	30.34	30.17~30.34m:傾斜70~90°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さC/Jとやや硬質である。
79	30.53	31.54	30~50°割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかなり不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。	-	-	-	30.53	31.54	30.53~31.54m:傾斜30~50°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかなり不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。
80	31.13	31.13	44°のせん断性割れ目で、上盤側は幅10~20mmが角礫構造(φ5~10mm)の岩片と硬質な砂状部。下盤側は硬質岩片で、岩片には、せん断性割れ目に対してほぼ直交する60°割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	31.13	31.13	44°のせん断性割れ目で、上盤側は幅10~20mmが角礫構造(φ5~10mm)の岩片と硬質な砂状部。下盤側は硬質岩片で、岩片には、せん断性割れ目に対してほぼ直交する60°割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	31.13	31.13	31.13m:傾斜44°の割れ目の上盤側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状。下盤側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44°の割れ目に対してほぼ直交する傾斜60°の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。
81	31.64	31.94	40~50°割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。	31.64	31.94	40~50°割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。	31.64	31.94	31.64~31.94m:傾斜40~50°の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。
82	31.94	32.38	硬質(硬さC/J)の残留部で中石として分布。	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
83	32.14	32.14	42°、幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。	-	-	-	32.14	32.14	32.14m:傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。
84	32.24	32.24	65°で幅8~20mmの開口状割れ目が分布。砂とφ2~3mmの岩片で充填されている。	-	-	-	32.24	32.24	32.24m:傾斜65°で幅8~20mmの開口割れ目で、砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。
85	32.38	34.03	幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に含む。全体に10~30°割れ目が主体。	-	-	-	32.38	34.03	32.38~34.03m:傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。
86	33.20	33.31	硬質になる(硬さC/J)	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
87	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)ドラック	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)ドラック	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)ドラック
88	33.83	33.97	φ5~10mmの岩片と粘土化した基質からなる。一部にスライムを含む。	33.83	33.97	φ5~10mmの岩片と粘土化した基質からなる。一部にスライムを含む。	33.83	33.97	33.83~33.97m:径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる。
89	34.03	34.69	硬さC/Jの硬質部が主体。10~30°の割れ目が主体で、せん断性割れ目も含む。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する。	34.03	34.69	硬さC/Jの硬質部が主体。10~30°の割れ目が主体で、せん断性割れ目も含む。34.58mの40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なものは見られない。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する。	34.03	34.69	34.03~34.69m:傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.58mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なものは見られない。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
90	34.47	34.69	白色化するが、粘土化はない。	-	-	-	-	34.47	34.69	34.47~34.69m:白色化するが、粘土化はない。	
91	34.82	34.95	20~30°のせん断性割れ目がほぼ平行に数条分布する(色調の境界部が多い)。	34.02	34.05	20~30°のせん断性割れ目がほぼ平行に数条分布する(色調の境界部が多い)。割れ目にマンガンが付着しているが、細粒部は伴わない。 34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列は見られない。	34.82	34.05	34.82~34.95m:傾斜20~30°の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界部についている場合が多い。割れ目にマンガンが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列は見られない。		
92	34.70	36.20	(色調欄)2.5YR/1灰白	34.70	35.20	(色調欄)10YR9/0明黄褐	34.70	35.20	(色調欄)明黄褐		
93	34.69	38.81	硬さ「D」であるが、35.26~35.96m間は硬さ「C」と硬質。	34.69	38.81	硬さ「D」であるが、35.26~35.96m間は硬さ「C」と硬質。	34.69	38.81	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
94	35.26	35.96	硬さCと硬質。割れ目でも薄く砂状化する。	35.26	35.96	硬さCと硬質。割れ目沿いに薄く砂状化する。	35.26	35.96	35.26~35.96m:割れ目沿いに薄く砂状化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
95	35.95	38.81	一部で風化により著しく軟化する部分も含むが、概ね硬さが主体。粘土化や粘土質の分布はわずかながら、黄土は粘土化・白濁→軟化する。割れ目は10~40°と、これに斜交~直交する50~70°割れ目からなる。割れ目の一部は砂状を呈するものも含まれる。	35.95	38.81	一部で風化により著しく軟化する部分も含むが、概ね硬さが主体。粘土化や粘土質の分布はわずかながら、黄土は粘土化・白濁→軟化する。割れ目は10~40°と、これに斜交~直交する50~70°割れ目からなる。割れ目の一部は砂状を呈するものも含まれる。	35.95	38.81	35.95~38.81m:傾斜10~40°と、これに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の一部は砂状を呈する。粘土化や粘土質の分布はわずかながら、黄土は粘土化・白濁→軟化する。一部で風化により著しく軟化する部分も含む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
96	36.46	36.47	上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進んでいる。φ2~4mm石英粒やφ0.5mm以下の微細な白雲母を含む。色調は淡緑色化(2.5GY 7/1明オリーブ灰)する。	36.45	36.47	上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進んでいる。φ2~4mm石英粒やφ0.5mm以下の微細な白雲母を含む。色調は淡緑色化(2.5GY 7/1明オリーブ灰)する。	36.45	36.47	36.45~36.47m:上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進む。径2~4mmの石英粒や径0.5mm以下の微細な白雲母を含む。淡緑色化し、明オリーブ灰色を呈する。		
97	-	-	-	37.10	37.41	変質し、黄色味を帯びる。	37.10	37.41	37.10~37.41m:変質し、黄色味を帯びる。		
98	38.00	38.14	38.00~45°上38.14m~60°で囲まれ、全体がφ10mm前後の岩片に砕けている。	38.00	38.14	38.00m、45°上38.14m、60°で囲まれ、全体がφ10mm前後の岩片状を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。に砕けている。	38.00	38.14	38.00m~45°上38.14m~60°の割れ目で囲まれ、全体が径10mm前後の岩片状を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。		
99	38.52	38.52	42°のせん断性割れ目で交差する割れ目を切っている。明褐色(7.5YR 5/6)、幅3~8mmの軟質粘土脈を挟む。	38.52	38.52	42°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っている。明褐色(7.5YR 5/6)、幅3~8mmの軟質粘土脈を挟み、含まれる粒子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	38.52	38.52	38.52m:傾斜42°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。幅3~8mmの軟質明褐色粘土脈を挟み、含まれる粒子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
100	38.81	39.24	39.04~39.12mに硬さDの岩片を含むが、これ以外は著しく軟化した硬さ「E」である。	-	-	-	38.81	39.24	39.04~39.12m:やや硬質な岩片を含む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
101	38.81	38.24	(岩級区分欄)D	38.81	39.24	(岩級区分欄)DL	38.81	39.24	(岩級区分欄)DLに含める		
102	39.14	39.14	15°、幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が分布。	39.14	39.14	15°、幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が分布。	39.14	39.14	39.14m:傾斜15°で幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。		
100	39.24	40.17	硬さ「C」と硬質であるが、割れ目の一部は風化で砂状化する。20~40°割れ目と、これに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。部分的に幅1~2mmの粘土脈を挟む。	39.24	40.17	硬さ「C」と硬質であるが、割れ目の一部は風化で砂状化する。20~40°割れ目と、これに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。	39.24	40.17	39.24~40.17m:割れ目の一部は風化で砂状化する。傾斜20~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
104	39.67	39.67	44°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を3ヶ所切っている。変位10mm。	39.67	39.67	44°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を3箇所止めている。切っている。変位10mm。割れ目には埃が認められず、止められている各割れ目が44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。	39.67	39.67	39.67m:傾斜44°の割れ目は、交差する割れ目を3箇所止めている。割れ目には埃が認められず、止められている各割れ目が傾斜44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。		
105	40.08	40.14	各々40°、36°の割れ目沿いに著しく軟化する。	40.08	40.14	各々40°、36°の割れ目沿いに著しく軟化する。	40.08	40.14	40.08m~40°、40.14m~36°の各割れ目沿いに著しく軟化する。		
106	40.17	40.69	上下に比べ、割れ目は少なくなる。	-	-	-	40.17	40.69	40.17~40.69m:上下に比べ、割れ目は少なくなる。		
107	40.47	40.50	40.47m~25°と40.50m~36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~φ5mm細片化する。	40.47	40.50	40.47m~25°と40.50m~36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~φ3mm細片化する。	40.47	40.50	40.47m~25°と40.50m~36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~径3mmに細片化する。		
100	40.69	41.10	30~40°割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。また、一部の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色~淡褐色粘土を挟む。	40.69	41.10	30~40°割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。また、一部の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色~淡褐色粘土を挟む。	40.69	41.10	40.69~41.10m:傾斜30~40°の割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。一部の割れ目に幅1~2mmの軟弱な白色~淡褐色粘土を挟む。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	追記した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
109	41.18	41.45	ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅している。岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化している。	41.18	41.45	ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅している。岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化している。	41.18	41.45	41.18～41.45m:ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化する。
110	41.45	42.23	30～40°の割れ目主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部が厚くなる。	41.45	42.23	30～40°の割れ目主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部が厚くなる。	41.45	42.23	41.45～42.23m:傾斜30～40°の割れ目が主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部の幅が広がる。
111	-	-	-	41.86	41.86	傾斜42°の割れ目に沿って幅3cm程度褐色化が顕著。幅2mm程度の砂状部を挟む。	41.86	41.86	41.86m:傾斜42°の割れ目沿いに幅3cm程度で褐色化が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。
112	42.23	42.50	幅1～3mm軟弱な白色粘土層が網状に分布し、全体が軟化著しい。	42.23	42.50	幅1～3mm軟弱な白色粘土層が網状に分布し、全体が軟化著しい。	42.23	42.50	42.23～42.50m:幅1～3mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布し、全体に軟化が著しい。
113	42.27	42.27	42°のせん断性割れ目で、幅5～8mmの軟弱な褐色粘土層をはさむ。	42.27	42.27	42°のせん断性割れ目で、幅5～8mmの軟弱な褐色粘土層を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端面に注入している。粘土中の鉄屑の分布配列は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	42.27	42.27	42.27m:傾斜42°で幅5～8mmの軟弱な褐色粘土層を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端面に注入する。粘土中の鉄屑の分布配列は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
114	42.49	42.49	37°のせん断性割れ目で、幅1～2mmの軟弱な赤褐色(5YR 5/3)の粘土層をはさむ。	42.49	42.49	37°のせん断性割れ目で、幅1～2mmの軟弱な赤褐色(5YR 5/3)の粘土層を不連続に挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	42.49	42.49	42.49m:傾斜37°で幅1～2mmの軟弱な赤褐色の粘土層を不連続に挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
115	42.50	44.56	10～40°の割れ目や低密度割れ目が主体。割れ目ぞいに薄く風化し、一部には、幅1～2mmの白色～褐色(7.5YR 6/6)の軟弱な粘土をはさむ割れ目も多い。	42.50	44.56	10～40°の割れ目や低密度割れ目が主体。割れ目ぞいに薄く風化し、一部には、幅1～2mmの白色～褐色(7.5YR 6/6)の軟弱な粘土を挟む割れ目も多い。	42.50	44.56	42.50～44.56m:傾斜10～40°の割れ目や低密度割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く風化し、一部に幅1～2mmの白～褐色の軟弱な粘土を挟む。
116	43.15	43.20	43.15m、15°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。前者の43.15m、15°では幅2mmの風化砂をはさむ。 43.20m、36°のせん断性割れ目は他の割れ目を切り、幅3mmの白～褐色(7.5YR 5/3)軟弱粘土をはさむ。	43.15	43.20	43.15m、15°のせん断性割れ目で、高角度割れ目を切っている。交差する割れ目を切っている。前者の43.15m、15°では幅2mmの風化砂状部を挟む。 43.20m、36°のせん断性割れ目は他の割れ目を止めている。切り、幅3mmの白～褐色(7.5YR 5/3)軟弱粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入している。いずれの割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	43.15	43.20	43.15m:傾斜15°の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。 43.20m:傾斜36°の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟弱な白～褐色の粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入している。いずれの割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
117	43.74	44.56	10～40°と斜交～直交する60～90°の割れ目も分布し、φ10～20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。	43.74	44.56	10～40°と斜交～直交する60～90°の割れ目も分布し、φ10～20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。	43.74	44.56	43.74～44.56m:傾斜10～40°の割れ目と、これに斜交～直交する60～90°の割れ目が分布し、径10～20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。
118	44.05	44.08	44.05m、10°～44.08m、10°ないし75°で囲まれた部分は、砂状～φ5～10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。	44.05	44.08	44.05m、10°～44.08m、10°ないし75°で囲まれた部分は、砂状～φ5～10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。	44.05	44.08	44.05m、10°と44.08m、10°ないし75°の割れ目で囲まれた部分は、砂状～径5～10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。
119	44.41	44.43	珪質部で、硬質岩片として残留している。	-	-	-	44.41	44.43	44.41～44.43m:珪質部で、硬質岩片として残留する。
120	44.56	45.91	20～40°と60～80°の割れ目が交差し、φ5～10mmの岩片状と、岩片間の砂質土の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。	44.56	45.91	20～40°と60～80°の割れ目が交差し、φ5～10mmの岩片状と、岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。	44.56	45.91	44.56～45.91m:傾斜20～40°と60～80°の割れ目が交差し、径5～10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。
121	45.10	45.56	割れ目が明瞭に残留する。	-	-	-	45.10	45.56	45.10～45.56m:割れ目が明瞭に残留する。
122	45.27	45.27	48°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。幅3～4mmの軟弱な白色粘土層をはさむ。	45.27	45.27	48°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。交差する割れ目を切っている。幅3～4mmの軟弱な白色粘土層を挟む。粘土は不連続である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.27	45.27	45.27m:傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3～4mmの不連続で軟弱な白色粘土層を挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
123	45.60	45.60	70°のせん断性割れ目で、石英斑晶を切断して連続する。幅2～3mmの軟弱な白色～明赤灰色(2.5YR 7/2)の粘土層をはさむ。	45.60	45.60	70°のせん断性割れ目が石英斑晶を切断して連続する。幅2～3mmの軟弱な白色～明赤灰色(2.5YR 7/2)の粘土層を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	45.60	45.60	45.60m:傾斜70°の連続した割れ目に幅2～3mmの軟弱な白～明赤灰色粘土層を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 (変更しないものは「-」で表示) (変更しているものは「+」で表示)	記事 (変更しないものは「-」で表示) (変更しているものは「+」で表示)	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
124	45.91	46.28	破砕帯	破砕部			
125	45.91	45.94	Hb 上端52°、下端35°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒とφ5mmで粘土化したGp岩片を多く含む軟質な粘質粘土。明赤灰色(2.5YR7/2)を呈し、厚さ30mm	Hb 粘土質礫状破砕部 上端52°、下端35°で両者とも直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒とφ5mmで粘土化したGp岩片を多く含む軟質な粘質粘土。明赤灰色(2.5YR7/2)を呈し、厚さ30mm 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			●45.91~48.22m:破砕部 45.91~45.94m:粘土質礫状部(Hb) 上端52°、下端35°でともに直線的でシヤープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質、明赤灰色を呈する。幅30mm。 45.94~46.41m:粘土混じり岩片状部(Hb) 上端35°、下端15°でともに直線的でシヤープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。浅黄褐色を呈する。 46.41~46.45m:砂混じり粘土状部(Hc-2) ト端15°で直線的にシヤープに。下端0°でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端20°、下端20°でともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩片がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網状に分布する。φ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片と径5mmの白色軟質粘土とからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア割削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m:砂混じり粘土状部(Hc-2) 上端20°でやや波打ちながら、下端10°で直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端10°、下端34°でともに直線的でシヤープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網状に分布するφ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m:粘土質礫状部(Hb) 上端34°、下端68°でともに直線的でシヤープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を呈すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m:砂混じり粘土状部(Hc-2) 上端68°、下端68°でともに直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下部の灰白色の細粒部は不連続である。
126	45.94	46.41	Hj 上端42°、下端15°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟弱な白色粘土が網状に分布する。粘土混じり岩片状。浅黄褐色を呈し、厚さ300mm(45°)	Hj 上端35°、下端15°で、両者とも直線的でシヤープに連続 φ10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。粘土混じり岩片状。浅黄褐色を呈し、厚さ300mm(45°) やや軟質~硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
127	46.41	46.45	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端15°、下端20°で上端は直線的でシヤープに。ト端はやや波打ちながら連続。φ1~3mmと少量のφ5mmで粘土化したGp岩片を含む。やや硬質。明赤灰色(10YR8/3)を呈する。厚さ25~30mm	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端15°、下端20°で上端は直線的でシヤープに。ト端はやや波打ちながら連続。φ1~3mmと少量のφ5mmで粘土化したGp岩片を含む。やや硬質。砂混じり粘土で浅黄褐色(10YR8/3)を呈する。厚さ25~30mm 幅が縮小し、直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。			
128	46.45	47.64	Hj 上端20°、下端20°で両者ともやや波打ちながら連続。φ5~20mmの岩組織がほぼ消滅したGp岩片と岩片間を縫うように網状に分布するφ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片と径5mmの白色軟質粘土とからなる粘土混じり岩片状で、色別は、明黄褐色である。厚さ1090mm(コア長)	Hj 上端20°、下端20°で両者ともやや波打ちながら連続。φ5~20mmの岩組織がほぼ消滅したGp岩片と岩片間を縫うように網状に分布するφ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片と径5mmの白色軟質粘土とからなる粘土混じり岩片状で、色別は明黄褐色である。厚さ1090mm(コア長) やや軟質~硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	45.91	48.28	
129	47.64	47.65	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端20°、ト端10°で上端は直線的でシヤープに。ト端は直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒と少量の粘土化したφ5mmGp岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。厚さ10~15mm	Hc-2(最新活動面、47.65m) 上端20°、ト端10°で上端は直線的でシヤープに。ト端は直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒と少量の粘土化したφ5mmGp岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。厚さ10~15mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			
130	47.65	48.18	Hj 上端10°、下端34°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ5~20mmの一部で岩組織が残留。一部で消滅したGp岩片と岩片間を網状に分布するφ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片と径5mmの白色軟質粘土とからなる粘土混じり岩片状で明赤灰~明褐色を呈する。厚さ530mm(コア長)	Hj 上端10°、下端34°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ5~20mmの一部で岩組織が残留。一部で消滅したGp岩片と岩片間を網状に分布するφ1~2mmの白色軟質粘土混じり岩片と径5mmの白色軟質粘土とからなる粘土混じり岩片状で明赤灰~明褐色を呈する。厚さ530mm(コア長) やや軟質~硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
131	48.18	48.26	Hb 上端34°、下端68°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒と下部部に硬質岩片を呈すが、これ以外は粘土化したφ5mm前後のGp岩片からなる粘質粘土で、粘土はやや締っている。灰白色(7.5YR8/5)~明黄褐色(10YR8/6)を呈し、厚さは40~70mm	Hb 粘土質礫状破砕部 上端34°、下端68°で、両者とも直線的でシヤープに連続。φ1~2mm石英粒と下部部に硬質岩片を呈すが、これ以外は粘土化したφ5mm前後のGp岩片からなる粘質粘土で、粘土はやや硬質。灰白色(7.5YR8/5)~明黄褐色(10YR8/6)を呈し、厚さは40~70mm 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
132	48.26	48.28	Hc-2 上端68°、下端68°で両者とも直線的にシヤープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む。やや硬質な明黄褐色砂混じり粘土で、厚さ6~8mm	Hc-2 上端68°、下端68°で両者とも直線的にシヤープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む。やや硬質な明黄褐色砂混じり粘土で、厚さ6~8mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。下部の灰白色の細粒部は不連続である。			





コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名: H24-D1-1		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	適定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
146	53.77	54.54	破砕帯	53.77	54.54	破砕帯		●53.77～54.54m: 破砕帯 53.77～53.78m: 粘土質礫状部(Hb) 上端65°, 下端65°でともに直線的に連続。径1～8mmの石英粒や花崗斑岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土からなる。黒褐色を呈する。幅5～10mm。 53.78～53.80m: 粘土状部(Hc-1) 上端65°, 下端65°でともに直線的でシャープに連続。軟質、灰褐色を呈する。幅5～10mm。 53.80～53.83m: 粘土混じり岩片状部(Hd) 上端65°で直線的にシャープに、下端20°でやや波打って連続。径1～4mmの石英粒と径10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う。灰褐色を呈する。幅100～160mm。 53.83～53.89m: 軟質じり粘土状部(He) 上端20°でやや波打って、下端25°で直線的にシャープに連続。ごく少量の径1～2mmの石英粒と径10mm程度の粘土化した岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅5～10mm。 53.93～54.06m: 粘土質礫状部(Hb) 上端25°, 下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1～5mmの石英粒と径5～10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。にぶい黄褐色を呈する。幅100～160mm。 54.06～54.07m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°で直線的にシャープに、下端64°で大きく波打ちながら連続。径1～2mmの石英粒を含む。やや硬質、淡黄褐色を呈する。幅5～15mmで膨脹する。 54.07～54.45m: 粘土混じり礫状部(Hd) 上端64°で大きく波打ちながら、下端46°でほぼ直線的にシャープに連続し、下端では幅1～2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟質化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。54.38～54.45mはマンガン鉱染を伴う。灰黄褐色を呈する。全体は灰黄～灰黄褐色を呈する。幅190mm(60°)。 54.45～54.54m: 礫質砂状部(Hb) 上端46°, 下端55°でともに直線的でシャープに連続。径1～3mmの石英粒と径5～10mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質、淡黄褐色を呈する。幅60～70mm。	
147	53.77	53.80	Hc-2(主せん断面-53.77m)上端65°, 下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～3mmの石英粒を少量含む。岩片は含まない軟質な灰褐色粘土。厚さ15mm	53.77	53.78	Hb: 粘土質礫状部 上端60°, 下端60°で両者とも直線的に連続。径1～8mmの石英粒やGp岩片主体で基質は黒褐色粘土からなる。やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅5～10mm。黒褐色を呈する。			
148				53.78	53.80	Hc-1 粘土状部 最新活動面 53.80m 上端65°, 下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。軟質な灰褐色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅5～10mm。			
149	53.80	53.90	Hj φ1～4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う。灰褐色を呈する。厚さ100～160mm 上端65°, 下端20°で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続	53.80	53.90	Hj φ1～4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う。灰褐色を呈する。厚さ100～160mm やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。 上端65°, 下端20°で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続。			
150	53.90	53.93	Hc-2 上端20°, 下端25°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1～2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化した扁平なレンズ状のGp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。淡黄褐色を呈し、厚さ25～30mm	53.90	53.93	Hc-2 上端20°, 下端25°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1～2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化した扁平なレンズ状のGp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。淡黄褐色を呈し、厚さ25～30mmで膨脹する。含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			
151	53.93	54.06	Hb 上端25°, 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～5mm石英粒とφ5～10mmの粘土化した扁平なレンズ状のGp岩片を多く含む。硬質な粘土状でにぶい黄褐色を呈する。厚さ100～160mm	53.93	54.06	Hb 上端25°, 下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～5mm石英粒とφ5～10mmの粘土化した扁平なレンズ状のGp岩片を多く含む。硬質な粘土質礫状でにぶい黄褐色を呈する。厚さ100～160mm 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	53.77	54.54	
152	54.06	54.07	Hc-1 上端60°, 下端94°で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1～2mmの石英粒を含む。岩片は含まない淡黄褐色のやや締った粘土。厚さは5～15mmで膨脹する。	54.06	54.07	Hc-1 上端60°, 下端94°で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1～2mmの石英粒を含む。岩片は含まない淡黄褐色のやや硬質な粘土。厚さは5～15mmで膨脹する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			
153	54.07	54.45	Hj 上端64°, 下端46°で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続。下端では幅1～2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟質化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。54.38～54.40m間ではφ1～4mm石英粒が30～35°で配列性を示す。 下層部の54.38～54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄～灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)	54.07	54.45	Hj 粘土混じり礫状破砕部 上端64°, 下端46°で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続。下端では幅1～2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟質化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 54.45～54.46m間はφ1～4mm石英粒が30～35°で配列性を示す。 下層部の54.38～54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄～灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)			
154	54.45	54.54	Hb 上端46°, 下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～3mmの石英粒とφ5～10mmの粘土化した岩片を多く含む礫質粘土で粘土はやや締っている。淡黄褐色を呈する。厚さ60～70mm	54.45	54.54	Hb 礫質砂状破砕部 上端46°, 下端55°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～3mmの石英粒とφ5～10mmの粘土化した岩片を多く含む礫質砂状部でやや硬質である。淡黄褐色を呈する。厚さ60～70mm 含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
155	53.77	53.78	(礫粒度区分欄)Hc-2	53.77	53.78	(礫粒度区分欄)Hb	53.77	53.78	(礫粒度区分欄)Hb
156	53.78	53.80	(礫粒度区分欄)Hc-2	53.78	53.80	(礫粒度区分欄)Hc-1	53.78	53.80	(礫粒度区分欄)Hc-1

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

孔名:H24-D1-1

		コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)				
		記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事						
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度					
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		選定した記事内容					
197	54.06	54.07	(変質帯)4ランク	54.06	54.07	(変質帯)3ランク	54.06	54.07	(変質帯)3ランク	-		
198	54.46	54.54	(変質帯)4ランク	54.45	54.54	(変質帯)3ランク	54.45	54.54	(変質帯)3ランク	-		
199	54.54	56.11	φ5~10mmと大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質でコアを硬くし、と硬質になる。60~70°とこれに交差する40~60°の割れ目が主体で、割れ目ごとに砂状~細片状化する部分がある。	54.54	56.11	φ5~10mmと大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質でコアを硬くし、と硬質になる。60~70°とこれに交差する40~60°の割れ目が主体で、割れ目ごとに砂状~細片状化する部分がある。	54.54	56.11	54.54~56.11m:径5~10mmの大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質である。傾斜60~70°とこれに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体で、割れ目ごとに砂状~細片状化する部分がある。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
160	55.52	55.80	60°と40°の割れ目が交差し、交差部周辺はφ3~5mmに細片化する。岩片自身は硬く、粘土化などの劣化はない。	-	-	-	55.52	55.80	55.52~55.80m:傾斜60°と40°の割れ目が交差し、交差部周辺は径3~5mmに細片化する。岩片自身は硬く、粘土化などの劣化はない。	-		
161	56.11	56.48	傾斜Dと、上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布するが、粘土層の分布は少ない。	56.11	56.48	傾斜と、上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布するが、粘土層の分布は少ない。	56.11	56.48	56.11~56.48m:上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
162	56.48	56.90	全体に珪質のため硬質で、50~60°の割れ目~低密着割れ目が概ね10~30mm間隔で平行に分布する。粘土層などは分布しない。	-	-	-	56.48	56.90	56.48~56.90m:全体に珪質のため硬質で、傾斜50~60°の割れ目や低密着割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。粘土層などは分布しない。	-		
163	56.90	57.13	割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目ごと砂状~細片状化する。	56.90	57.13	割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目ごと砂状~細片状化する。	56.90	57.13	56.90~57.13m:割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目ごと砂状~細片状化する。	-		
164	57.13	58.96	著しく軟質化し、原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	57.13	58.96	著しく軟質化し、原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	57.13	58.96	57.13~58.96m:著しく軟質化し、原岩組織は残存するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	-		
165	58.00	58.00	70°、割れ目に幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色(7.5Y 8/2)粘土層を挟む。	58.00	58.00	70°、割れ目に幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色(7.5Y 8/2)粘土層を挟む。	58.00	58.00	58.00m:傾斜70°で幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色粘土層を挟む。	-		
166	58.62	58.62	75°で幅2~10mmの軟弱粘土層がφ5mm前後の粘土化岩片を混えながら、やや波打って連続する。	58.62	58.62	75°で幅2~10mmの軟弱な白色粘土層がφ5mm前後の粘土化岩片を混えながら、やや波打って連続する。	58.62	58.62	58.62m:傾斜75°で幅2~10mmの軟弱な白色粘土層が径5mm前後の粘土化岩片を含み、やや波打って連続する。	-		
167	59.06	59.30	破砕帯(K断層)	59.06	59.30	破砕帯(K断層)	59.06	59.30	●59.06~59.30m:破砕帯 59.06~59.09m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°で不明、下端45°で直線的にシャープに連続。幅1mmの軟弱な白色粘土層を伴う全体が粘土化した軟質化している。明褐色を呈する。幅3mm(45°)。 59.09~59.16m:粘土質硬状部(Hb) 上端45°で直線的にシャープに、下端40°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。淡黄色を呈する。幅80mm。 59.16~59.19m:粘土状部(Hc-1) 上端40°でやや波打ち、下端35°で一部凸部があるが直線的にシャープに連続。径1mm程度の石英粒、長石粒を含み、岩片は殆んど含まない。軟質。灰赤~灰白色を呈する。幅9~14mmで下端が凸部をなすため膨脹する。 59.19~59.30m:粘土質硬状部(Hb) 上端35°で一部凸部があり、下端50°でやや波打ちながら連続。下端には幅5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土を伴う。全体的には径1~5mmの石英粒、径3~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多量に含む。やや軟質。灰黄~褐色を呈する。幅90~170mm。	-	-	・傾斜、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の方位は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
168	58.90	59.05	H) 上端50°、下端45°で、上端は不明、下端は直線的でシャープに連続。幅1mm軟弱な白色粘土層と全体が粘土化した軟質化している。明褐色を呈する。幅3mm(45°)	58.90	59.05	H) 上端50°、下端45°で、上端は不明、下端は直線的でシャープに連続。幅1mm軟弱な白色粘土層と全体が粘土化した軟質化している。明褐色を呈する。幅3mm(45°)。 やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	58.90	59.05	H) 上端50°、下端45°で、上端は不明、下端は直線的でシャープに連続。幅1mm軟弱な白色粘土層と全体が粘土化した軟質化している。明褐色を呈する。幅3mm(45°)。 やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-		
169	59.05	59.16	HD 上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~2mm石英粒とφ5mm前後の粘土化した岩片を多く含む硬質粘土で、粘土はやり締っている。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。色調は淡黄色で厚さは80mm。	59.05	59.16	Hb 粘土質硬状破砕部 上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~2mm石英粒とφ5mm前後の粘土化した岩片を多く含む硬質粘土状部で、やや硬質。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。色調は淡黄色で厚さは80mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	58.96	59.30	Hb 粘土質硬状破砕部 上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~2mm石英粒とφ5mm前後の粘土化した岩片を多く含む硬質粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化した岩片を多量に含む硬質粘土で、やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 灰黄~褐色を呈し、厚さ90~170mm。	-		
170	59.16	59.18	Hc-1(最新活動面、59.16m) 上端40°、下端35°で、上端はやや波打ち、下端は途中で凸部をもちながら直線的でシャープに連続。φ1mm程度の石英粒、長石粒を含み岩片は殆んど含まない軟弱な粘土で、灰赤~灰白色を呈する。厚さは5~14mmと下端が凸部をなすため膨脹する。	59.16	59.18	Hc-1(最新活動面、59.16m) 上端40°、下端35°で、上端はやや波打ち、下端は途中で凸部をもちながら直線的でシャープに連続。φ1mm程度の石英粒、長石粒を含み岩片は殆んど含まない軟弱な粘土で、灰赤~灰白色を呈する。厚さは5~14mmと下端が凸部をなすため膨脹する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	59.16	59.18	Hc-1(最新活動面、59.16m) 上端40°、下端35°で、上端はやや波打ち、下端は途中で凸部をもちながら直線的でシャープに連続。φ1mm程度の石英粒、長石粒を含み岩片は殆んど含まない軟弱な粘土で、灰赤~灰白色を呈する。厚さは5~14mmと下端が凸部をなすため膨脹する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	-		
171	59.18	59.30	Hb 上端35°、下端50°で、上端で凸部をもちながら、下端部はやや波打ちながら連続。下端部は径5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化した岩片を多量に含む硬質粘土で、粘土は締っている。灰黄~褐色を呈し、厚さ90~170mm。	59.18	59.30	Hb 粘土質硬状破砕部 上端35°、下端50°で、上端で凸部をもちながら、下端部はやや波打ちながら連続。下端部は径5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化した岩片を多量に含む硬質粘土で、やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 灰黄~褐色を呈し、厚さ90~170mm。	59.18	59.30	Hb 粘土質硬状破砕部 上端35°、下端50°で、上端で凸部をもちながら、下端部はやや波打ちながら連続。下端部は径5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化した岩片を多量に含む硬質粘土で、やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 灰黄~褐色を呈し、厚さ90~170mm。	-		